

びふか 議会 です

こんにちは。

2022年2月
北海道／美深町議会



美深の「冬の風物詩」

第4回 定例会	ワクチン3回目の接種へ ……	2～3	ページ	
一般質問	ここが聞きたい 4議員 ……	4～8	ページ	
全員協議会	議会のあるべき姿に議論 続く ……	9	ページ	
委員会報告	町民の健康管理 仁宇布小中学校周辺整備他	総務住民常任委員会 産業教育常任委員会	10～11	ページ
私からの メッセージ	「軽音楽部」誕生秘話 故郷を愛する子どもに	木村 怜史 大久保雅恵	12	ページ

第120号

美深町議会

検索

ホームページから
議会の動きをご覧
いただけます。



この議会広報は、地球にやさしい
再生紙を使用しています。

第4回定例会

4議員の一般質問が行われました。
2件、追加の補正予算1件など全議案を

ワクチン

3回目の接種へ

高齢者施設
入所者2月から

一般会計
補正予算

コロナ対策は
第8弾へ

回復が遅れている地域経済への追加支援や非課税世帯への生活支援（ぬくもり助成特別給付金）、公共施設の感染防止強化対策など第8弾となるコロナ対策や3回目のワクチン接種、高騰する電気・燃料費や牛乳消費支援などへの増額補正をする一方、厚生病院の運営支援補助金や、これまで実施できなかった事業の減額補正などで1億1489万円の減額補正。

主な質疑

新型コロナウイルス

問 3回目のワクチン接種を進めるにあたり未接種者への対応と、接種計画は。

答 名寄市と連携し、12月まで申し込みを受けて実施してきた。
次回は、1回目・1月6日、2回目・1月27日となっている。

これ以降は名寄市と協議しながら進めることになる。

この計画内容は1月時点のものであり、感染状況等により変更があり得ますので、今後の町からの情報をご確認ください。

3回目の接種計画

対象者	時期	場所	体制
医療従事者等	1月27日	厚生病院	個別
高齢者施設入所者等	2月7日	厚生病院	個別
障害者施設入所者等	2月28日	厚生病院	個別
60歳以上の方・基礎疾患を有する方等	3月予定	COM100	集団
上記以外の方	4～5月予定	COM100・厚生病院	集団・個別

美深厚生病院運営
支援補助金の減額

問 5千7百万円減額されているものが決算確定によるものか。

答 令和2年度の実績に基づく3年度補助で、実績確定による減額。

問 厚生病院の経営内容が改善しているのか。

答 主要要因は、コロナ対策に掛かる国及び道の補助金が入ったため、町からの補助金が減額となった。

道路改良工事と
交差点の安全対策

問 北1丁目道路改修工事の減額内容と、東1条通りとの交差点の安全対策は。

答 3メートルの予算で設計したが、交付金の関係で、今年度事業が41・4メートルになり、減額となった。

交差点の安全対策については、交通全般を見据え、住民生活課も協議の中に加わっているが、最終決定は公安委員会となる。

主な補正内容（一般会計分）

役場庁舎換気機能付き冷暖房設備	635万円
町民体育館指定管理料（燃料費）	258万円
3回目ワクチン接種に関わる経費	3,430万円
牛乳消費喚起促進・PR	314万円
川西浄水場電気機械設備更新工事	4,050万円
厚生病院運営支援補助	△5,774万円
北1丁目等道路改良事業	△1億3,055万円



復旧が待たれる駅前の街灯

第4回定例会が12月14日に開会し、12月17日には補正予算7件、条例改正可決。意見書3本を可決し閉会しました。

交通ターミナル街灯

問

落雷により故障した街灯は、いつ頃、復旧するのか。現状のままでは駅の階段が暗くて危険だが。

答

受注生産であり、復旧は1月20日頃になる予定。また、足元が暗い状況は、指定管理者と夜に確認し、必要があれば、何らかの対応をしたい。

施設の燃料費追加

問

燃料費の高騰から各施設の燃料費が追加されているが、自治会館や委託先の施設はどうか。

答

今回は特に大きい施設について燃料高騰の影響があると判断し、追加補正した。指定管理している施設については、状況を見届けて3月補正で整理したい。

括支給するもの。

問

全員に年内の支給ができるのか。

答

中学生以下の児童手当給付世帯と申請済の高校生、制限解除による対象者は年内に。申請が遅れた方も1月中には支給される。

質問者

岩崎

原案可決

全員賛成

は25%

原案可決

全員賛成

住宅リフォーム補助は一年間延長

令和4年3月終了の条例を令和5年3月まで延長するもの。

原案可決

全員賛成

意見書を国へ提出

①北海道農業の基幹作物てん菜の生産を守ることを求める意見書

②地球温暖化、海水温上昇に伴う水産漁業被害の解明と支援策を求める意見書

③国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書

意見書の詳細はこちらをご覧ください



第1回臨時会

1月14日

国の政策で、非課税世帯とコロナによる影響の大きい世帯へ、生活支援として1世帯10万円、862世帯を見込み支援するもの。

問

コロナの影響を受けた世帯の定義と周知方法は。

答

コロナで所得が大きく減少した方で、申請をしていただき、該当となれば支給されるもの。広報誌や防災情報端末機等を活用し周知していく。

質問者

名取・藤原 岩崎

原案可決

全員賛成

子ども一人、10万円

国の対策による、子育て世帯への臨時特別給付金。町は所得制限を設けず、18歳以下の子ども全員へ現金で一

追加補正

原案可決

全員賛成

質問者

小口・藤原 岩崎・荒川

条例改正

国民健康保険税一部減額

全世代対応型の社会保障制度の構築のため、未就学児に係る被保険者均等割額を減額するもので、対象は30人強で、最大50万円ほど減額となる。(町の負担

4議員
町政を問う

一般質問

一般質問の各ページは、質問した議員自身が質疑を要約し原稿作成をしています。

名取 明美 議員

- 子育て世帯の支援と
新型コロナ下の
子ども支援について

田中 真奈美 議員

- 地方高校に通う通学費及び
下宿費用の助成について
- 美深町の診療の在り方について



小口 英治 議員

- 第3セクター合併の
改善方針について
- 「子ども権利条約」への
取組について

岩崎 泰好 議員

- 再び問う。累積赤字を
どう解消するのか。びふか温泉
健全経営の方向性は。

一般質問とは・・・

各議員が美深町の行財政全般にわたり町行政当局の考え方や疑問点を質すことで、執行機関の政治姿勢を明らかにし、それに対する政治責任を明確にさせたり、結果としては、現行の政策を変更・是正、あるいは新規の政策を採用させるなどの目的と効果があります。

全議員に質問する権利があり、所定の期日までに通告書を提出した議員だけが行うことができます。

●子育て世帯の支援と新型コロナ下の子ども支援について



名取 明美 議員

問

子育て世帯へ商品券の再給付を

答

国からの財源手当がつけば考えていく

質問

日本が抱えている現状は給料のベースアップが少ない中、税制改正や社会保険料の増加により世帯の手取り収入が減少している。

経済的不安を緩和するため、子育て環境などの充実としてふるさと納税などを活用した美深町商品券による新たな給付は考えられないか。

町長

町ではこれまで多くの子育て世帯への経済的な支援策を講じてきた。

今後においても子育て世帯への臨時特別給付金や非課税世帯に対する臨時特別給付金を給付することが決まり、経済的支援が進められている。

ふるさと納税制度は、条例に基づき、11事業に対し寄付を募っているもので、どの事業に活用するのか、その時

の財政状況にあわせて検討していく。

質問

税制改正や社会保険料の増加が原因で手取り収入が減少することにより共働き世帯が増えている。

美深町の子育て世帯に関する支援の強化については、どのように考えているか。

町長

幼保一元化の取り組み、給食制度の導入、さらに高校生までも支援している。

また、子育て支援について高い評価をいただいている事も理解してほしい。

質問

現在、3歳児からは保育料が無償化となっている。0歳から2歳児までは非課税世帯は無償で、それ以外は有料となっている。

子育て環境を更に整えるために、保育料の無償化あるいは減額による支援を検討しては

町長

子育て世代の大変さは理解するが、町の施策として子育てだけに特化した考え方は、厳しいものがある。

質問

依然として子どもたちの新型コロナウイルスの感染リスクがあり、不安定な状態で過ごしている。

町長

今の段階では、これ以上の対策はできない。しかし、国からの財源手当がつけば、考えていく必要がある。

質問

これからの子育て世帯に優しい町づくりと新型コロナ対策についての町長の考えを伺う。

町長

皆様の声や議員の声も大事にしながら取り組んでいく。



- 地方高校に通う通学費及び下宿費用の助成について
- 美深町の診療の在り方について



田中 真奈美 議員

問 地方高校に通う交通費等の補助はできないか

答 今は時期に至っていない

質問 美深高等学校進学には、町独自の手厚い助成があるが、地方に学びを求める子どももいる。

将来の美深を担う子どもへの夢を応援すべく、地方高校に通う通学費及び下宿費用の助成を行うことはできないか。

町長 これまで町が行ってきた美深高校に対する支援は、

地元の高校を存続させる取り組みの一つであることをご理解いただきたい。美深高校が募集停止の時には、通学費の助成なども考えなければいけないが、今はそいつ時期には至っていない。

質問 地元高校の存在について

美深高校と同じには言われないが、少しの補助はできないか。

町長 美深中学校から地元の高校へ

進むようになりたい。今の段階はそこまで至っていない。

質問 名寄高校と産業高校が2023年に編成統合し、専門分野を学べたものがない。

美深の基幹産業である農業を学ぶことなどが大事と考えるが。

町長 農業については後継者対策、担い手対策をしている。

地元高校以外の進学を促す立場にはなれない。



問

恩根内診療所の今後は

答

将来を見据えて
閉院

質問 恩根内診療所が休診中の現在

今後の美深町の診療の在り方についてどう考えるのか。

また、開業医誘致に向けた取り組みと、一歩進んだ医療として訪問診療の考えはないのか。

町長 恩根内診療所に通院していた

患者のほとんどが厚生病院に通院され、休診となって困ったという相談ことや、地域の声は届いていない。将来を見据えて閉院にならざるを得ないと考えている。

開業医誘致については、努力をしている。訪問診療は、慢性的



な医師不足、看護師不足等を考えると実現はできないが、厚生病院には注文としてお願いをしている。



小口 英治 議員

- 第3セクター合併の改善方針について
- 「子ども権利条約」への取組について

問

住民説明が不十分

答

一定の説明責任は果たしている

質問 美深振興公社と道の駅アウルが合併の方針だが、赤字経営からどのような改善策で取り組むのか。

町長 特に美深振興公社は平成30年度から債務超過になっている。基本的にはそれぞれの法人において経営改善を図ることが大前提だが、経営努力だけでは、改善出来ない社会的要因もある。経営の改善と組織改編

による新たな経営体制の確立を図る目的で、役場職員2名を派遣している。

質問 過去に町長から「第3セクター

の運営はその会社に委ねているので町が物申すのはいかかか」という答弁があった。

大株主の社長は町長でもあり、美深振興公社に任せられた結果がこのような事態であり、どう町民に説明するのか。第3セクター等の在り方に関する研究会の報告書では経営の実態把握と議会・住民に対し説明を行うことが重要とあり、情報公開と説明はどうするのか。

町長

美深振興公社とアウルによる住民説明会を開催し、組織改編の意義として資本金の強化・維持管理の集約化・共同仕入れによる経費の削減等の方針を説明した。

質問

住民説明が不十分に欠ける。広報等でも説明や情報提供を行うべき。

町長

一定の説明責任は果たしているつもりである。提案として受け止めておく。

問

子どもの意見を積極的に

答

積極的に対応する



参加する権利



守られる権利



育つ権利



生きる権利

子ども権利条約 (公共財団法人日本ユニセフ協会ホームページより)

質問

「子ども権利条約」には4つの原則があるが、特にわが町でいじめの発生はないか。万が一、起きた場合の取り組みは整備されているのか。

教育長

毎年春・秋2回、全道統一の調査を実施している。平成29年度からは

質問項目も変更され、いじめの芽を早期に摘むため積極的に認知する扱いになり、即解消に向け取り組んでいる。学校を休んだり、長期にわたり嫌な思いをしている児童は現在いない。

質問

権利条約の原則には子どもにとつて最も良いことを考えるとあるが、2019年子育て支援に関するアンケート調査の自由記述の中で、放課後の居場所、公園の不足の指摘もあるが、そういう声を聴くことも大事な視点では。

教育長

コロナ禍で場の設定が難しくなったが、総合学習の中で、子どもたちの中に入り交流しながら町の将来についての声を聴いていきたいし、「少年の主張」・「社会を明るくする運動」を通し対応したい。

●再び問う。累積赤字をどう解消するのか。
びふか温泉健全経営の方向性は。



岩崎 泰好 議員

問 びふか温泉と道の駅統合で
経営の改善は図られるのか

答 劇的なカンフル剤はないが
地道な取り組みを着実に

質問 赤字が続く2つの法人の統合の根拠と統合後の計画、統合により経営内容がどう改善されるのか、経営健全化に向けた再建のための計画書の策定は。

総務省の示した「経営健全化方針の策定」実施する計画と実施時期は、課題解決に向けた将来構想があつてこそ、町民の納得を得られると思うが町長の考え方は。

町長 両法人は、林業保養センター及び物産展示館の運営を担う法人として設立され、この間一定の収益を上げてきたが近年は赤字が続く状態にあつた。行政の対策として平成30年から改善の方向を検討し、赤字については、経営努力だけでは改善できない社会的要因もあり、それに起因する減収部分を負担

美深町第3セクター
㈱美深振興公社&㈱アウル
統合計画説明会

とき：2021. 10. 4 PM 5:30
美深町文化会館COM100 大会議室



してきた。令和3年4月から2名の町職員を法人に派遣し、経営実態の把握と経営改善を図り、抜本的な改善策として2つの法人の合併に向けた準備を進めている。

統合に向けた改善策は、美深振興公社とアウルによる町民説明会が文化会館COM100で開催され、合併による組織改編の意義を「資本金の強化による運転資金面での余裕、維持管理の一本化や共通仕入れによる経費縮減、販売事業や利用客

への相互PR効果や多様化への期待」との説明。令和4年6月を目標に、新たな美深振興公社としてスタートする計画。

経営改善では現状はこれといった劇的なカンフル剤はなく、経営の合理化と経費の削減

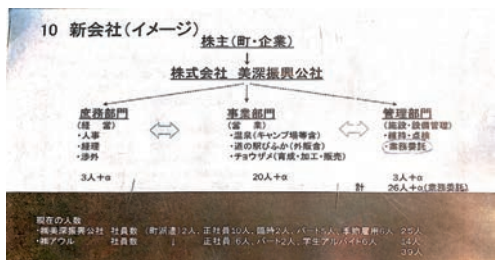
7 組織の改編計画 (令和3年1日現在)

・ ㈱美深振興公社	資本金 3,000万円	利益剰余金 Δ52,150千円
内 町 出 資	2,000万円	中長期借入金 62,322千円
・ 町内企業7・団体3	1,000万円	
・ ㈱アウル	資本金 1,000万円	利益剰余金 15,099千円
内 町 出 資	700万円	
(農業・商店・個人)	225万円	
・ 自社出資(自社株)	75万円	

美深振興公社への統合(吸収合併)へ
・ 資本金 4,000万円(既存(3,000万円)+1,000万円) 4,000万円
・ 企業出資300万円または町出資? 町出資700万円(継続)

を目指して統合を進めるが、地道な取り組みを着実に進めていくことが効果を上げるものと考えている。行政の立場としてひたすら経営の改善という使命を果たしてもらい、期待され

た成果を上げることが願っている。
総務省の示した経営健全化方針の策定には経営健全化に向けて経営統合を進めているところでもあり、個々の法人による方針は策定すべき時期ではない。課題解決に向けた将来構想はこれらの課題を解決することによって、また統合することによって1つの道が開けると考えている。



写真は町民説明会で配布された資料の一部抜粋

議

会広報の役割は、時代と共に大きく変わってきました。

議会で決まったことを「お知らせ」するに留まらず、住民の関心事を絞り込み積極的な情報発信と、住民と連携した広報へと進化をすすめています。

「進んで手に取り、関心ごととして読みたくなる」編集の工夫と紙面づくりが必要となります。

「議会広報モニター制度」を立ち上げ、1年経過し、多くのご意見を参考に紙面刷新を続けています。

第

2次のモニターを募集します。ご一緒に「開かれた議会づくり」に参加していただけませんか。

第2次

議会広報モニター募集します。

募集人員

10人程度
10代～80代
各世代から
ご参加を
お願いします

募集期間

令和4年2月10日～
令和4年3月31日

モニター期間

令和4年4月～
令和5年3月
(1年間)

仕事内容

年4回発行の
議会広報への
アンケートに
ご回答

謝礼

薄謝

申し込み

議会事務局

お問い合わせ

01656
2-1651

議会のあるべき姿に議論 続く

次期議会のカタチ

9月から全員協議会で協議・3月議会で方針を報告

協議概要と方向性

人口減少や少子高齢化・
介護・医療・産業などの課題

山積みの中で、令和5年議会議員選挙があり、議会のあり方や構成への議論が必要として、令和3年9月から毎月1回のペースで全員協議会を開き協議進行中です

主な協議内容

① 議員定数

議員からの 主要な意見

・議会機能として、2常任委員会が必要なので現状の11名を維持すべき

・人口減少、人材不足、他町村状況から、現状定数の維持は難しい側面も

・多様な年代層の参加や町民意見反映から現状維持すべき

・現状維持11名か、減員しても10名との認識

・前回も選挙戦となっており、減員する必要はない

その他の協議内容

③ 議会選出
監査委員

④ 政務調査

⑤ タブレット
利活用

⑥ 議員報酬

⑦ 行政視察

⑧ 議会
録画配信

⑨ 団体役員

⑩ ICT導入

その他

ICT化の進む先進地視察 — 士別市議会



タブレット端末利活用によるペーパーレス化や省力化、議会中継録画配信による情報伝達の仕組み視察のため、1月19日士別市議会を訪問しました。予想を超えた先進的な取り組みに驚くとともに、当議会の今後の取り組みへの意義ある視察となりました。



町民の健康管理

総務住民
常任委員会

調査日 令和3年10月28日

調査事項 町民の健康管理について

調査内容 ①厚生病院の運営

利用者は微減状態だが、コロナ禍で利用単価の上昇やコロナ対策支援金の交付に加えて、医師の常勤化等で経費圧縮もあり、赤字額への町の補助金が減少した。

②電子カルテの整備

医療用画像・検査・調剤カルテとの連携が、3月には本格稼働予定。

③特定健診

令和2年度は46%の受診率で下降傾向。

④ワクチン接種

10月20日時点で、3406人が2回接種を完了し、接種率は90%を超えた。

⑤コロナ禍での町民の健康管理

名寄・旭川の医療機関の利用者が減少し、医療費も前年を下回った。

◎まとめ

厚生病院の電子カルテシステム構築により、待

ち時間の短縮や業務の正確性の確保、周辺の医療機関との連携により情報の共有ができ病院の信頼性の向上に期待が持てる。

コロナ禍による外出自粛や医療機関の利用控えなどがまだ続いている状況で、健康管理の低下による早期発見の遅れや、フレイルの進行など懸念される状況にあり、注視していく必要がある。今後は健康診断の受診者を増やす対策や健診を終えた人へのアフターケアの充実を図ることも重要である。

国民健康保険特定健診受診率(40歳～74歳)

年度	対象者数	受診者数	受診率
平成28年度	880人	497人	56.48%
平成29年度	838人	443人	52.86%
平成30年度	818人	424人	51.83%
令和元年度	807人	403人	49.94%
令和2年度	789人	367人	46.51%

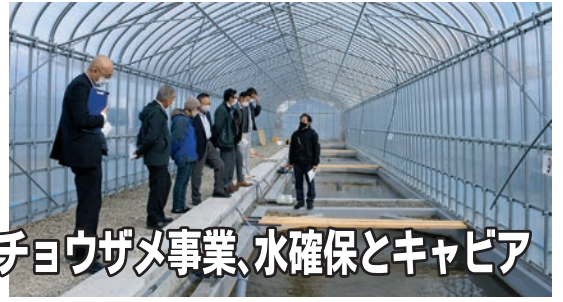
2021年、コロナに始まりコロナに終わった。行事、イベントも自粛が続き、人々の行動範囲も一段と狭まり、コロナ対策も第8弾にまでなってしまった。議会も研修や視察が、ほぼすべて中止となった1年であった。縮んだ経済を回復させようと、人々にはワクチンを打ち、経済には支援金の対策を打ち、



函岳のめ

元の状態に戻そうと世界中が躍起になっている。コロナにまずまっているうちに、世の中は「SDGs」に「脱炭素」も同じところに戻るところにはできないだろう。「初めから優勝なんか目指しません。毎日の努力の積み重ねが優勝に繋がる」とBIGBOSS新庄。まさに正論で日本ハムの復活に期待が膨らむ。コロナからの復活も、今できることを地道に取り組み、前に進めることが一番の近道かもしれない。

藤原 芳幸 記



調査日

令和3年10月22日

調査事項①

仁宇布小中学校の建替の進捗と山村留学の現状、今後の対策について

調査内容

①グラウンド整備と旧校舎解体

グラウンドは、水はけのよい形状に生まれ変わり、旧校舎跡は、冬季間の堆雪場、教職員駐車場として整備された。

②今後の生徒確保対策

ホスターホーム10室・親子住宅10戸が基本的な考えだが、現状は6室・6戸。利用状況、少子

化の状況、予算の関係から施設の改修等を進めるか、現状継続か課題は厳しい。

小規模特認校は年度内に方向性を出す。

◎まとめ

校舎建築時に示された計画目標に基づき、ホスターホーム10室・親子住宅10戸の受け入れ態勢を実行すべき。

小規模特認校への取り組みは評価する。

調査事項②

チョウザメ事業の進捗について

調査内容

①飼育用水確保

仁宇布発電所導水管メンテナンス工事が長期間行われるため、水確保のための工事が行われる。

②えさの確保

生エサ主体の飼育に変わり、繋がりのある漁協の協力で生エサの供給を受けることができた。工

サの切断は手作業のため、今後、作業人員の確保が課題。

◎まとめ

水の確保は重要課題で、リスク分散での対応策を進めるべき。今後単年度での採算ベースが可能となることから、本格的なキャビア販売体制の構築を望む。

議会の動き・予定

2/24	2/10	2/21	1/28	1/20	1/19	1/19	1/18	1/14	1/14	1/14	1/11	1/7	12/17	12/17	12/17	12/17	12/14	12/14	12/8	12/7	11/29	11/29	11/29	
所管事務調査	産業教育常任委員会 所管事務調査	議会運営委員会視察 研修(稚内市)	議会広報特別委員会 議会広報特別委員会	議会広報特別委員会	全員協議会	名寄市議会視察受入 議会運営等視察研修 (土別市)	全員協議会	第1回臨時会	議会運営委員会	議会広報特別委員会	議会広報特別委員会	議会広報特別委員会	議会広報特別委員会	議会広報特別委員会	議会広報特別委員会	議会広報特別委員会	議会広報特別委員会	議会広報特別委員会	議会広報特別委員会	議会広報特別委員会	議会広報特別委員会	議会広報特別委員会	議会広報特別委員会	議会広報特別委員会

表紙を飾る人

「冬の風物詩」

降雪量が10cmを超えた朝は、美深町道除排雪協同組合員を中心に50人以上が町道139kmの通行の確保、通学路の歩道の確保に、早朝一斉に出動します。

降雪が少ない日は排雪作業を行い、道内屈指の豪雪地帯の町民の暮らしを支えています。

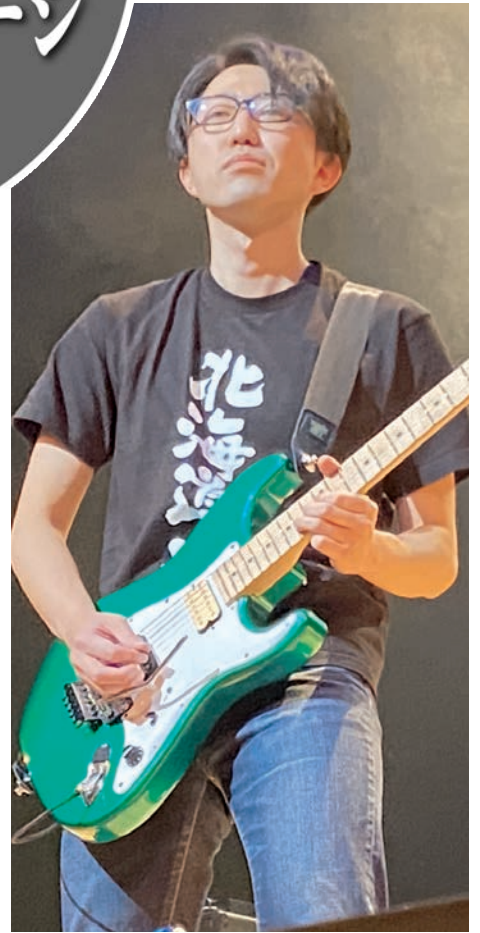
「作業は住民への負担を抑え、公正さを第一に進めている。町民にはご理解、ご協力をお願いしたい」と担当課。

他の町へ出かけると、美深町の行き届いた除雪を実感できます。



私からのメッセージ

美深町民の
おふたりからメッセージを
いただきました。



「軽音楽部」誕生秘話

木村 怜史

故郷を愛する子どもに

大久保 雅恵



私が美深高校に赴任した2016年当時、学校には音楽系の部活動がありませんでした。ちょうどその年、北海道高文連に軽音楽専門部ができ、第1回の全道大会が札幌市で開催された際に観に行っただ私は、出場校のレベルの高い演奏を見たことで『これだ!』とひらめいたのです。

2017年3月頃、バンド活動をしたいと

言っていた生徒達5人を集め、軽音楽同好会を立ち上げました。当初はバンド活動のための機材も予算も足りなかったため、私の私物を持ち込んだり地域の方から機材をお借りしていました。

2018年から部に昇格し、予算もつくようになりました。

活動5年目の今年、

We are Sneaker Ages という大会で北海道代

表に選ばれ、ついに全国大会への出場を果たしました。これまでの実績を残すことができたのは、生徒たちの努力の結果であるのももちろん、日ごろからライブの機会を提供してくれる地域の大人たちの手厚いサポートがあったからです。

これからも『地域に応援される部活動』として軽音楽部が続いてほしいと願っています。

「美深は良い所ですよ。学校子どもも地域もみんないい。美深で良かったですね。」

私の美深小への異動が新聞発表になった時、美深に勤務されていた方から頂いた電話です。私は令和2年4月、美深小に着任しました。電話のとよりの町に喜びを感じる毎日です。

美深に来て驚いたことの一つに、美深を盛り上げようと多くの方

が工夫を重ねていることがあります。より良い町に、という意識の高さに感じ入りました。

また、様々な人を受け入れ、尊重し合い協力し合っている町という印象があります。人々の心のあたたかさは素晴らしいです。

さらに、美深の子どもたちをとっても大切にしている印象もあり、地域の方は子どもたち

良い経験や良い教育をと、考え実行しています。学校への多大なご協力にも感謝しています。

素晴らしい美深に育つ子どもたちに、故郷を愛する心と故郷を知り、先人の努力に学び、さらに美深を発展させる子どもを育むよう、

私は地域と学校の架け橋となり、教育を発展させる決意であります。